

平成 27 年度 全日本学生自動車連盟九州支部 総会 議事録

日時 平成 27 年 12 月 19 日 (土) 14:00 – 18:00

場所 九州大学 箱崎キャンパス 21 世紀プラザ I 1 階多目的ホール

出席校 九州大学、九州工業大学、西南学院大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学(*)、大分大学、鹿児島大学(*)、北九州市立大学、九州歯科大学、福岡工業大学、
但し、(*)は委任状提出校を表す。

全加盟校 17 校中 出席校 11 校 (委任状提出校 2 校を含む)

全日本学生自動車連盟九州支部規約 第 6 章 第 18 条 4 により、本総会は成立した。

議題 1 平成 27 年度 活動報告 ・ 平成 28 年度 活動予定

全日本学生自動車連盟九州支部(以下、九州支部)の平成 27 年度における活動報告、および平成 28 年度における活動予定について、下記の報告があった。

1. 平成 27 年度 活動報告

全九州学生選手権大会

全九州学生ダートトライアル大会

5 月 3 日(日)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

春季全九州学生ジムカーナ大会

6 月 28 日(日)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

秋季全九州学生ジムカーナ大会

10 月 11 日(日)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

全九州学生ラリー大会

11 月 28・29 日(土・日)

福岡県田川郡赤村、大任町及び添田町

全日本関連

全日本学生ダートトライアル選手権大会

8 月 9 日(日)

丸和オートランド那須(栃木県)

全日本学生ジムカーナ選手権大会

8 月 22・23 日(土・日)

鈴鹿サーキット国際南コース(三重県)

全日本エコドライブチャンピオンシップ 2015

8月24日(月)

鈴鹿サーキット国際レーシングコース(三重県)

全日本学生自動車運転競技選手権大会・全日本学生自動車連盟総会

11月29日(日)

近鉄自動車学校(大阪府)

阪南大学 (大阪府)

2. 平成28年度 活動予定

全九州学生選手権大会

全九州学生ラリー大会

3月19・20日(土・日)

未定

全九州学生ダートトライアル大会

未定(5月初旬)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

春季全九州学生ジムカーナ大会

未定(6月19日等)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

秋季全九州学生ジムカーナ大会

未定(10月9日等)

SPEED PARK 恋の浦(福岡県福津市)

全日本関連

全日本学生ダートトライアル選手権大会

8月7日(日)

テクニクスステージタカタ(広島県)

全日本学生ジムカーナ選手権大会

8月20・21日(土・日)

鈴鹿サーキット国際南コース(三重県)

全日本エコドライブチャンピオンシップ 2016

8月22日(月)

鈴鹿サーキット国際レーシングコース(三重県)

全日本学生自動車運転競技選手権大会・全日本学生自動車連盟総会

11月27日(日)

日通自動車学校 杉並校(東京都)

この後、議題2 会計報告 と共に議決を採り、議題1 は承認された。

議題 2 会計報告

平成 27 年度の会計報告がなされた。

「九州支部運営費」について上田理事より、「トロフィー代は各大会におけるものも含むのか」というご質問があり、総会におけるトロフィー代のみを含む、との回答があった。これを受けて柴田理事より、「各大会の賞品代金はトロフィー代、賞状代などに分けるべきである」こと、「プリンターやストップウォッチの代金は大会ごとではなく連盟での費用としてまとめるべきである」ことについてご指摘があった。これらの表記は今後修正していくこととなった。

また、「ACK・KIT ナイトラリー 収支報告書」について、「『支部からの補助』が¥50,000 というのは高いのではないか」という指摘があった。これに対し「¥30,000 程度が妥当である」や「運営補助費とし、賞品代金をそこから支出する」といった案が出たが、具体的措置は ACK と共に相談していくこととなった。

ここで議題 1、議題 2 についての議決を採り、議題 1 と共に議題 2 は承認された。

議題 3 議決

5 つの議案に対する議決が行われた。

議案 1 交流ポイント制度の新設

九州支部ではJMRC九州より、学生シリーズ各クラス上位者に対し、JMRC九州管轄の大会への割引券を発行して頂いている。このこともあり近年では、JAF公認競技大会への学生参加者数も種目を問わず安定している。しかし、この割引券制度も依然として周知が不足しており、学生シリーズの上位を狙う動機として十分に役割を果たし切れていないと考えられた。

そこで、JMRC九州の大会との更なる交流、学生大会に参加できない九州支部常任委員、学生大会へオフィシャルとして参加する学生への救済などを目的とし、「交流ポイント制度」の新設が提案された。

これは、事前に申請を出しておくことで、九州支部加盟校の学生がJMRC九州の管轄するJAF公認競技大会に出場して得た成績を、特定の条件を満たした場合に、全九州学生チャンピオンシリーズの得点として加算(交換)するという制度である(詳細は 全九州学生チャンピオンシリーズ規則 -交流ポイント制度に関する付則- を参照)。本制度新設に対し、議論が行われた。

上田理事より、「申請していた場合、学生大会のポイントを JAF 公認競技のポイントで必ず交換しなけ

ればならないのか」というご質問があった。これに対し、申請をしても必ずしも交換しなくてもよい、との回答があった。

また、交流ポイント制度に関する付則 第4条 第2項について、「オフィシャルとして参加しても学生大会に年1戦走らなければならないのでは、年1戦しかないダートトライアルではオフィシャルを救済出来ないのではないか」という質問に対し、「競技種目は関係なく、申請するクラスの学生大会に年1戦出場していればよい」との回答があった。

九州工業大学(戸畑)より、「レースやフィギュアなどからの適用はないのか」という質問があり、「JAF戦、および全九州学生大会のどちらにもある競技への適用を考えている」との回答があった。

九州大学からは、「ジムカーナは秋にもあるが、交換の時期はどうするのか」という質問があり、「交換の最終決定はシリーズ終了後とすることを考えている」と回答された。

付則の第4条 第1項について、九州工業大学(飯塚)より「参加台数が少ないときの得点に対する係数が大きい。5台で1.0になる程度ではどうか」という指摘があった。係数については、今後議論を進めて決定することとなった。

交流ポイント制度新設自体への議決として、議案1は承認された。

議案2 全九州学生・大学対抗チャンピオンシリーズ規則改定

九州支部主催の大会に適用されるシリーズ規則は、ポイント制度の変更やクラス新設などの多くの変更に伴い表記が複雑になっており、加えて学生シリーズ規則にラリーに関する記載が少なく、大会前後に規則の解釈に関する質問、指摘が挙がるのが極めて多かった。これを受けて、記載の整理、学生シリーズ規則へのラリーに関する記載の追加を行った改訂版のシリーズ規則書の採用を提案し、これに対する議論を行った。

従来シリーズ規則からの具体的変更点は以下のとおりである。

・全般

- ・略称の変更

AJSAA九州支部→当支部

・全九州学生チャンピオンシリーズ規則

第3条：参加資格

- ・免許保有条件の追記

有効な自動車運転免許を有し

→大会参加時に、出場車両の運転に有効な自動車運転免許を有する

- ・参加車両についての記載の削除
各大会により異なる参加車両についての規則は、特別規則書に譲ることとした。

第4条：クラス区分

- ・シリーズにおけるクラス区分と、各大会におけるクラス区分の分離
ラリーにおけるクラス区分への誤解を避けるため。
- ・在学5年以上の学部生に関する表記の変更
クラス区分と別に表記していたが、各クラスの参加要件に含めた。
- ・ラリーの参加要件、ポイント制度の追記
質問が多かった、クルーの組み合わせについて明記(学生同士のみ)。
クラス区分、ポイントの付与および加算方法について明記。

第5条：得点及びシリーズ順位

- ・交流ポイント制度に関する記載
- ・表記の変更、表の整理
得点付与の条件やクラス表記、シリーズ順位の決定方法について表記を変更。

第7条：規則の運用

- ・規則違反について
違反による罰則適用の対象とする規則を、シリーズ規則と大会特別規則のみから、あらゆる規則に拡大。
- ・規則違反の判断
規則違反の判断を九州支部が行うことを明記した。

「在学4年以下」という表記に対し九州大学より、「3年次編入の学生は、大学院へ進学しても在学4年以下であればよいのか」という質問があった。これに対し議論が行われ、「3年次編入により在学4年以下で大学院へ進んだ学生もM2クラスに出場する」という結論となった。

また、九州大学から「SSラリーでは駆動方式の差は大きくなるが、単一クラスでいいのか？ その場合、ペナルティが必要ではないか？」という指摘があった。これに対し議論が行われ、
「4WDでラリーに出た場合、4WDクラスのみへのポイント加算とする」
「ナビゲーターだけは順位、ポイントを下げるなどして他のクラスへの加算を可とする」
「4WDはラリーでは3秒/kmのペナルティを与える」

「ラリーから他への加算は順位を1つ下げて適用する」

などの案が出された。

更なる議論の後、「現状は単一クラスとし、ラリーから他への加算は順位を1つ下げて適用する。4WDのペナルティ等は、次のラリーでの2WD、4WDのタイム差を計り決めていく」との結論となった。

これを受けて九州工業大学(戸畑)より「ポイントの振替もあり順位は変わりうるが、ラリーの大会当日に賞品はあげてしまってもよいのか」という質問があったが、「大会での順位と学連での順位は切り離して考え、その日にあげるべきである」と結論付けられた。

ここで議決を採り、議案2の全九州学生チャンピオンシリーズ規則は承認された。

・全九州大学対抗チャンピオンシリーズ規則

第2条：シリーズ認定

- ・シリーズの対象について

大学対抗シリーズの対象が、各大会団体戦であることを明記。

第3条：参加資格

- ・免許保有条件の追記

有効な自動車運転免許を有し

→大会参加時に、普通自動車の運転に有効な自動車運転免許を有する

- ・在学年数

在学4年以下でなければならないことを明記。

- ・失格に対する処分の対象

大学だけでなく、大学対抗シリーズへの参加者を追加。

- ・参加車両についての記載の削除

各大会により異なる可能性のある参加車両についての規則は、特別規則書に譲ることとする。

第4条：成立要件

- ・大会の成立要件と、団体戦の成立要件が別であることを明記

第5条：得点及びシリーズ順位

- ・成立要件と順位について

団体戦の成立と順位の獲得が、得点の条件であることを明記。

- ・ 順位の判定
表記の整理を実施。

第7条：規則の運用

- ・ 規則違反について
違反による罰則適用の対象とする規則を、シリーズ規則と大会特別規則のみから、あらゆる規則に拡大。
- ・ 規則違反の判断
規則違反の判断を九州支部が行うことを明記した。

上田理事より第4条の記述について、5台という表記を5校に改めるべきであるとのこと指摘があった。この点は修正されることとなった。

ここで議決を採り、議案2の全九州大学対抗チャンピオンシリーズ規則は承認された。

ここで、5分間の休憩が取られた。

議案3 ベストパフォーマンス賞

九州支部主催の大会においては、「結果には表れていないものの、印象的な走りをした、あるいは今後の活躍への期待を感じさせた参加者」に対してベストパフォーマンス賞を授与しており、その選考は、公平性のためデモラン走者の方をお願いしてきた。

しかし近年の大会において、受賞者の大半を各クラスの上位入賞者が占めるという状況が多く見られており、ベストパフォーマンス賞の本来の趣旨からは離れてしまっている、と言える状態であった。

これに対し、ベストパフォーマンス賞対象者の選考に関して、一部制約を設けることについての議論が行われた。

九州支部からは、「参加者数の少ないクラスから選出する場合を除き、原則として各クラス上位3名からの選出は避ける」という案が提案された。

議決をとり、議案3は承認された。

議案4 ダートトライアルにおける首部保護装置について

平成27年度全日本総会において、平成28年度の全日本学生ダートトライアル大会における首部保護装置の装着が義務化された。

この規則においては、HANS(Head and Neck Support)の装着が推奨されている。だが、HANSは最低でも5万円以上で、かつHANSに対応した専用のヘルメットが必要となることから、代替措置としてバイク用具として用いられるネックガードの装着を最低限求めている。

HANSは、ヘルメットとシートベルトを間接的に固定するものである。HANS非装着時は体がシートベルトにより固定されているのに対し、頭部は全く固定されていないため、クラッシュ時に首が伸び、頚椎の損傷や、振り回された頭部と車内部品との衝突による脳への障害が問題となる。これを防ぐため、頭部が胴体から一定以上離れないように拘束するというものである。

一方ネックガードは、バイクでの転倒時にヘルメットに打撃を受け、ヘルメットが胴体方向に押し込まれた際に、鎖骨を圧迫して骨折に至るといった事故を防止する。よって、ロールケージの装着された競技車両では、ロールケージが完全に潰されて、ヘルメットがルーフに押し込まれる状況でのみ機能する。

以上を踏まえ、平成28年度以降の全九州学生ダートトライアル大会において、参加者に首部保護装置の装着を求めるかどうかを議論した。

九州支部からは、現在全九州学生ダートトライアル大会で利用されている、SPEED PARK 恋の浦における大会では首部保護装置は必要ない、との見解が示された。

九州大学からは「ネックガードは義務化してもいいのではないか」という提案があり、これに対し九州支部からは「全日本の公式戦でもHANS、ネックガードを付けていない人が多数であり、義務化までは必要ないと判断した」との回答が示された。

九州工業大学(戸畑)より「学生特有の危険性もあるため、HANSはあるべきである」との指摘があった。これに合わせて九州大学からは「HANSを強く推奨、それが不可ならばネックガードの装着を推奨」と表記することが提案された。

また、上田理事からの「HANSの(弊害としての)横方向への制限はどの程度か」とのご質問に対し、九州工業大学(戸畑)より「ジムカーナのパイロンセクションで横を向くには厳しいが、ダートトライアルであれば問題がないレベルである」との回答があった。

以上の議論の結果、全九州学生ダートトライアル大会においては「HANSは強く推奨、不可ならばネックガードの装着を推奨」と表記することとなった。

議決により、議案4は承認された。

議案5 常任委員および、その所属校の負担軽減

九州支部の運営の全てを担う常任委員は、本来、支部内の全ての加盟校から交互に選出されるべきものであるが、2009年以降、全ての常任委員が九州大学または九州工業大学より選出されており、著しい偏りが生じている。この弊害として、常任委員の人数確保が困難となっていた。

この状況の改善には、不特定の加盟校からの継続的な常任委員の選出が必要であるが、長年常任委員を輩出していない加盟校から新たな常任委員を選出することには、加盟校としても個人としても大きな壁があると思われるため、何らかのきっかけが必要と考えられた。一方で、常任委員は完全なボランティアであり、以降の学生大会に一切参加することが出来なくなるという面も考慮すると、選出を強制することは、組織の運営として極めて不健全であり、避けるべきことでもあった。

この問題への対処法について、平成27年度では年間を通じて常任委員内で議論を重ねてきたが、有効な方策を見出すことが出来ていなかった。そこで、総会の場で各加盟校からの提案を募り、議論することとした。

なお、九州支部常任委員の見解として、解決すべき問題点は、

- 1) 常任委員の負担が大きく、一方で見返りがほぼ存在しない。
- 2) 常任委員を輩出したことにより、その委員の所属する加盟校が得るメリットが非常に小さい。

という2点であると提言された。

九州工業大学(戸畑)からは「他の部活動も見習い、各大学1人ずつ選出し、会議の場も各地を順番に回るようにしてはどうか」との提案があった。これに対し九州支部より「参加の書類等をまとめて大会当日にもっていく人は一か所にいた方がよいが、1人は非現実的である。また、会議は平日に行う上、大会も福岡で開催されるため、会議の場所は実質福岡県内に限定される」と回答があった。

これを受けて九州大学から、オンライン会議はどうかとの提案があったが、九州支部より「過去に実施した際は進度が非常に悪く、非効率であった」と回答された。

また、九州大学より「学生大会のオフィシャルへの手当てや、朝早く来た競技参加者に手伝ってもらうのはどうか」との提案があった。九州支部からは、「オフィシャルへの手当ては今年から実施しているが、早く来た参加者に手伝ってもらうことについては検討していく」との回答が示された。

九州工業大学(飯塚)から「現状で常任委員は何人要るのか」という質問があった。上田理事より「1学年3人ほどいれば良いのではないか」とのご提案があり、九州支部からは「それだけいれば余裕も出るだろう」と回答された。

また、柴田理事から「他支部を見習い、OBにオフィシャルのポスト長や委員長を任せることも考えて

かどうか」とのご提案があった。

常任委員への補償については、柴田理事より「現在計上されているもの以外の無記載の交通費や食費をまとめて、月額で付与するのはどうか」とのご提案があった。

これらを踏まえ「オフィシャルへの手当て、常任委員への月額付与などで補償をしていく」との結論が出された。

ここでオフィシャルへの手当て、および常任委員への補償のそれぞれに対し議決が行われ、共に承認された。

議題4 全日本から

スラローム規則書・車両規定 改正

平成27年度全日本総会において、スラローム規則書、および車両規定の改正が行われたことについて報告がなされた。以下が改正箇所の要約である。

1. シートベルトの使用期限

「使用期限のすぎているもの」の記述をなくし、シートベルトの使用期限は見ないものとする。
→九州支部では、従来から使用期限による制限をしていない。

2. 牽引装置

全ての車両は車体前後に後付けの牽引装置を必着とする。また後付け牽引装置は赤・黄またはオレンジ色に塗装されていること。
→九州支部では、JAFによる車両規則に従い、純正の牽引装置でも可とする。

3. ライトのテーピング

「各ライト部位についてビニールテープで米印以上に飛散防止処置をする」この内容を削除する。
→九州支部でも同様に対処する。

4. ロールバーの材質

クロモリ鋼でできたロールバーの使用を禁止する。
→全日本学生大会や九州支部団体戦で用いられるSC車両のロールケージは、「JAFまたは他のASNが公認あるいは認証したもの」か「冷間引抜 継ぎ目無し 純炭素鋼」に限定されている。前者は、指定工場で全溶接により装着し、その後個別にASNに申請し公認を取る必要が有るため、学生による作成は事実上不可能である。そのため、九州支部では特別に記載することはない。

5. ネックガード

HANS デバイスの使用を推奨する。最低限ネックガードの使用を義務付ける。

→九州支部では、本総会での議決に基づき対応する。

議題3 議案4における議決から、「HANS を強く推奨、それが不可ならばネックガードの装着を推奨」と呼びかけることとなった。

議題5 九州支部から

特別規則書の変更点について

平成28年度 全九州学生ダートトライアル大会 特別規則書 の内容に変更が加えられた同草案に対し、議論が行われた。(特別規則書の内容については、全九州学生ダートトライアル大会特別規則書 を参照)

議題3- 議案4における議決を反映して、草案の第6条 第4項の後に 第5項 : HANS の項を追加することとなった。

また、排ガス検査で不合格となり、何度かやり直すことで合格した車両があるため、事前にチェックするようにとの注意喚起があった。

本総会での修正を反映した草案に対し議決が行われ、議題5は承認された。

議題6 平成28年度常任委員 紹介

平成28年度の常任委員の編成について、以下のように紹介された。

常任委員長	伊藤 慶	(九州大学)
常任副委員長	今門 利和	(九州工業大学)
常任副委員長	中山 聖	(九州大学)
会計	近藤 員章	(九州工業大学)
常任委員	服部 航	(九州大学)
	山田 拓也	(九州大学)

議題7 加盟校から

九州工業大学(戸畑)より、「学生大会はJAFの公認競技であるが、JAFの規則より競技長にはB2級以

上のライセンスがいるのではないか。また、ポイント振替制度に従いJAF戦と学生大会の両方に出た場合、“草レース”の扱いとなり罰則があるのではないか」という質問が挙がった。

これを受けて規則を確認し、九州支部より「学生大会はJAFにはクローズドとして申請しており、クローズドでは競技長のライセンスについての規定がない。また申請は本部の全日本学生自動車連盟から行っているため、両方とも問題はない」との回答が示された。

以上をもって全ての議題は終了し、平成27年度全日本学生自動車連盟九州支部総会は閉会した。